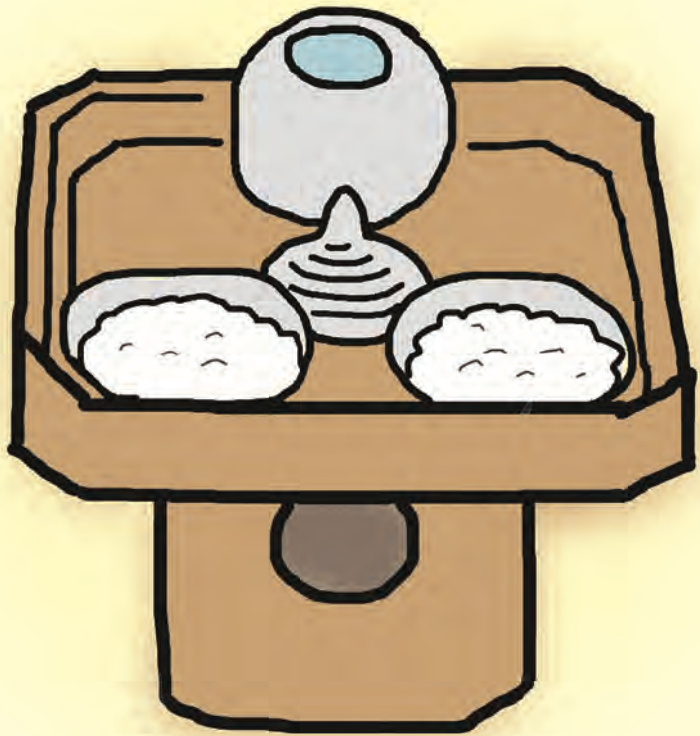


お給仕



Q 旅行などで長く家を留守にする場合、お給仕はどうしますか？

A 神さま、祖霊さまは、その人のまごころを受けられます。ですので、出掛ける前に、気持ちとしていつもより多くのお洗米を盛り付け、礼拝の時に留守中のお給仕である旨を奏上し、お許しを願うようにするとよいでしょう。この時、お供えするお米は洗わなくても構いません。留守の間、お給仕はお供えしたままにしましょう。

Q お給仕やお供えを怠るとどうなりますか？

A 私たちは神さまのみ恵みによって、日々食事を頂き、生活しています。一方、霊界のご先祖さまは、私たちがお供えすること、そのまごころを受けて、ますます向上、安定され、その祖霊さまの喜びがまた、現界の子孫に良い影響を与えるといわれています。つまり、ご先祖さまと私たちは、持ちつ持たれつの一体的な関係なのです。ですので、お供えを怠ると、ご先祖さまがやるせない思いをされ、申し訳のないこととなります。

毎日のお給仕に

「まごころ」を込めて

聖師さまはお供え物について、「神に供え物をなすときは、心を清らかにして供え物をなすべし。不和なる家の供え物は神これを受けたまわず。神はなんじらの供えまつるそのあつき心を見て、喜びたまえばなり」と、お示しくださっています。

また、尊師さまは、

「神さまへお給仕する際には、まず第一に気持ちをきれいにせねばいけない。神さまへは気持ちはずぐ通ずるものである」と、述べられています。

このように、神さまはお供え物そのものを受け取られるのではなく、供える人の気持ちをくみ取られます。たとえそのお供え物が安価なものであろうと、神さまはそれに込められた「まごころ」を受けられ、お喜びになるのであり、それに対してご神徳を施されるのです。



みろく博士

私たちは一日として食事を取らない日はありません。この食べ物全て、神さまのみ恵みによって頂いているものです。お給仕とは、こうして生かされている日々の感謝の気持ちを形に表したものです。では、お給仕はどのように行うのでしょうか？ 詳しくご説明しましょう。

大本本部

綾部・梅松苑 綾部祭祀センター
〒623-0036
京都府綾部市本宮町1-1 梅松苑 / TEL 0773 (42) 0187

亀岡・天恩郷 亀岡宣教センター
〒621-8686
京都府亀岡市天恩郷 / TEL 0771 (22) 5561

東京本部 東京宣教センター
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44 / TEL 03 (3821) 3701

大本ホームページ <http://www.oomoto.or.jp/>
※「大本いろは」は大本ホームページ（ご案内ページ）から、カラーでダウンロードできます



<連絡先>

お給仕とは...

私たちが日々食事をし、無事に過ごさせていただいている感謝の心を形に表したものが「お給仕」です。万物を生かし育むために欠かせない火・水・土の中の「水」と、食を代表して、私たちの主食である「米」を、毎朝、大神さまと祖霊さまにお供えます。

お給仕をすることは、天地のご恩に感謝する、信仰生活の基本ともいえます。



お給仕の心得

前述の通り、感謝の気持ちを表したものがお給仕です。で、まごころを込めて、明るく、敬虔な気持ちでさせていただきます。きましょう。

ご神前・お宮の清掃

お給仕をする前に、ご神前とお宮の清掃を行います。このとき、布巾(さらし)は必ず大神さま用、祖霊さま用で分けてください。

- ① 専用の布巾で、お宮のほこりを取り除きます。
- ② 八足、床の順番にから拭きを行います。

一家が健康で、和合し、栄えている家は、まず神床が清潔であるといわれています。神さまのお光を頂くためにも、普段から神床を清潔に保つことを心掛けましょう。



三方の持ち方と供え方

三方をささげ持つ際、息がかからないよう、目の辺りまで上げましょう。

縁の横に親指を当て、人さし指と中指を縁の下面に、他の二指を胴にそろえて添えます。



親指が縁の上にかからないように、気をつけるんじゃよ〜

お明かりを灯した神床に三方を持って進み、お供えます。



祖霊さまには日供膳を

祖霊さまには、お給仕の他に、日供膳をお供えます。

特に朝に限らず、夕食時などご飯を炊いたときに、最初に日供用の茶碗に三杯でご飯を盛り、汁、お菜、漬物、お茶などと共にお供えます。

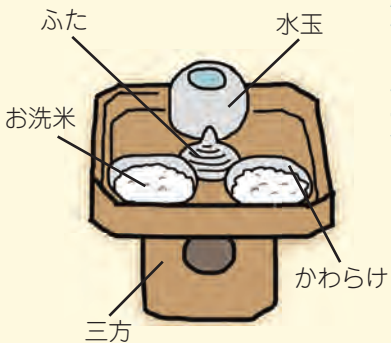
この時、今日も大神さまのみ恵み、ご先祖さまのおかげで食事を頂くことができます。どうぞお召し上がりください。という気持ちでお供えされるとよいでしょう。

そのまごころは、祖霊さまにとって大きな喜びであり、力になると示されています。



お給仕の仕方

- 1 神さま用のやかん(容器)に、その日最初のお水をくみ、お給仕に用います。
- 2 大神さま・祖霊さまのお供えに必要なだけのお米をざるに入れて、スプーンなどを使い、数回水を替えながら洗います。(お洗米)
- 3 水玉の8分目までお水を入れます。神床までの移動距離が長い場合などは、適宜、ふたを閉めておくともよいでしょう。



三方・かわらけ・水玉は、バランスの取れた大きさのものを使うんじゃ!



- 4 水気を切ったお洗米を、上座側(向かって右側)のかわらけに盛ります。この時、一つのかわらけに対し、3杯に分けて盛りましょう。続いて、下座側のかわらけにも盛り付けます。



- 5 三方の胴には三つの穴があります。その中央の穴と、三方の縁のとじ目がある所が三方の正面に当たります。正面手前にお洗米、中央奥にお水、真ん中にふたをのせます。



正面

- 6 三方を切り火で清めた後、三方の正面がこちらに見える向きでお供えます。



- 7 朝拝が終われば、すぐにお下げしましょう。お下げしたお水は「ご神水」として頂きます。料理などで使わせていただいてもよいでしょう。お洗米はご飯を炊くときに、他の米と合わせて炊きます。



どうして3杯で盛るの?

「神様には三杓子と定められているのは、第三天国に一杯、第二天国に一杯、第一天国に一杯、都合三杯盛るわけだ。八衢は二杯、地獄は一杯である。死後天国に昇らんことを希うものは、ご飯も三杓子盛って食べるようにするがよい」(『水鏡』)との、聖師さまのお示しによるものです。

